

新井満・いのちの交響楽 in 広島

2015年3月5日(木) 広島市文化交流会館
広島文化学園HBGホール

- 第1部 講演と歌唱「千の風に吹かれながら、平和を想う」新井満
- 第2部 講演「いまを生きる力」五木寛之
- 第3部 対談と歌唱 五木寛之×新井満
- フィナーレ 合唱「千の風になって」「大河の一滴」
折り鶴合唱団+新井満



「五木さん、新曲の作詞の締切は、たしか今日でしたよね？」
(新井さん)

渴いた心を潤し、生きる力になるものとは… 平和都市ヒロシマで開催されました。

戦後70年の広島に響きわたった 「千の風」と「イマジン」

今年、広島は被爆70年を迎えます。新井さんは代表曲「千の風になって」の誕生秘話をひとしきり語ると、自ら粛々と歌い始めます。

私のお墓の前で 泣かないでください
そこに私はいません 眠ってなんかいません
千の風に 千の風になって
あの大きな空を 吹きわたっています

死者が生者に語りかける名曲を、思いを馳せるように歌う新井さん。魂を鎮めるような静粛な拍手が会場を満たしました。

そしてお話は、世界一有名なピースソング「イマジン」(ジョン・レノン作詞・作曲)の話題へと移ります。新井さんが長野冬季五輪の仕事に関わった際、「イマジン」こそ開会式にふさわしい歌だと考え、26行の原詩をもとに260行の「自由訳・イマジン」を創作して強く提案しましたが、残念ながら採用されませんでした。ところが8年後、トリノ冬季五輪開会式の中継を眺めていると、ジョンの夫人オノ・ヨーコさんが俄に登場。「イマジン!ピース!」という宣言に続いて、この歌が満場に響きわたったのです。「私がイメージした通り!」と感激した新井さんは、忘れかけていた「自由訳・イマジン」の原稿を探し出しヨーコさんのもとに届けます。結果、「トレビアン(素晴らしい!)」の賛辞とともに、新井さんはニューヨークのレノン邸に迎えられたのです。ヨーコさんと新井さんの話は弾み、その対談とともに書籍「自由訳・イマジン」は世に出ます。

もしかすると 君は言うかもしれない
そんなの夢さ 現実はずっと厳しいんだぞ
でもね こんなふうに考える人間は
ほくひとりだけじゃないんだ
ほかにもたくさんいるんだよ
君も仲間になってくれないかなあ
そしてどんどん仲間が増えたなら
いつかきっと 世界は ひとつになる

イマジン
さあ イメージしてごらん
心の中で想い描いてみてごらん

世界中の人々が 仲良く助け合い
ほほえみながら
平和に暮らしている姿を

(自由訳・イマジンより抜粋)

「自由訳・イマジン」全編を切々と朗読した新井さんに、感銘の拍手が鳴り止みません。「平和都市ヒロシマで紹介できて光栄です」と締めくくりました。

親鸞聖人は「悲泣せよ」と諭された

五木寛之さんの講演のテーマは「涙」。スサノオノミコトが「母が恋しい」と大地が震えんばかりに泣き喚いたと神話にあるように、古来、日本人は男女に限らずよく泣き、泣くことで感情や思想を伝えようとしてきたといえます。しかし近代化の中で、涙を見せるのは恥ずかしいことになったのだと。

「『酒は涙か溜息か』のように、昭和の歌にはよく涙がでてきますが、戦後は、湿っぽい歌より明るい歌が健康的だと、笑顔や笑いを評価してきました」「日本の建築も湿式工法から乾式工法へ大転換。湿潤な風土を嫌い明るく乾いた空間を好むようになった。エアコンの普及もドライ指向の一翼。心までドライになってきたのです」。

渴いた時代を生きる私たちに大切なのは、「涙」「嘆き」「悲しみ」は実に大切な感情であることを思い起こすこと。「涙の歌も、一陣の風となって渴いた心を潤すんです」と。

釈迦如来かくれまして
二千余年になりたもう
正像の二時はおわりにき
如来の遺弟悲泣せよ
(末法の時代に生きる仏の弟子たちよ、
嘆くのだ、悲しむのだ)

今年82歳の五木さんは、長編小説『親鸞』を書き上げたばかり。親鸞聖人は80歳を過ぎてなお多くの和讃(和語の仏教讃歌)を作りましたが、最後に五木さんは、そんな和讃のひとつを紹介して講演を終えました。

対談で明かされた 二つのサプライズ

新井さんが憧れの五木さんに初めて会ったのは、五木さんが書いた「青春詩」への作曲コンクール。若き新井さんは応募して佳作を受賞。その授賞式だったといえます。その後、会話はめくるめく展開し、二つのサプライズが明かされました。住友生命健康財団の創立30周年を記念する「ライフフォーラム<生きる>」(今年10月7日、東京)へ向けて、五木さん作詞・新井さん作曲の新曲を制作中であること。そして五木さんの未完の大作『青春の門』の執筆再開が準備されていること…満場の喝采のなか、新井さんは五木さん作詞『青春の門のテーマ』を熱唱しました。

フィナーレは、地元広島で活躍する「折り鶴合唱団」が登場。五木さん作詞の『大河の一滴』、そして『千の風になって』の大合唱。ヒロシマに「いのちの交響楽」が響きわたりました。



「ダコタ・ハウスに行ってきました」



粛々と歌われた「千の風になって」



「造語の名人みうらじゅんに『老いるショック』と返されました(笑)」



折り鶴合唱団



フィナーレ



会場風景